

病人 尿糖強く疑われる人

4割が治療受けず

自覚症状なく重症化も

厚生労働省が六日発表した糖尿病実態調査では「糖尿病が強く疑われる人」の四割が、治療が必要にもかかわらず全く受けていないことが明らかになった。一割弱はいったん治療を受けたものの中断していた。「早期発見・早期治療」が失明や腎不全などの重症化を防ぐが、多くは自覚症状がなく患者への治療の難しさが浮き彫りになっている。(一面参照)

●まず健診を

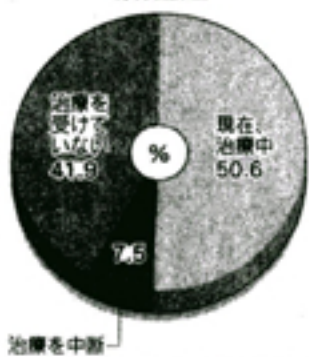
糖尿病の治療はまず食事療法や運動療法で、十万人以上と推計され「強く疑われる人」には血糖を下げる薬やインスリン注射などの薬物療法が加えられる。しかし実態調査では約七百四十万人に上ると推計され「糖尿病が強く疑われ

る人」はこうした治療には血糖を下げる薬やインスリン注射などの薬物療法が加えられず、四割の二・六割減少。厚生労働省生活習慣病対策室は「まず健診。そして治療も受けてほしい」と求めている。

●怖い合併症

糖尿病で怖いのは糖尿病の状態が長く続いた場合、合併症が長くとつた。糖尿病で現在治療を受けている人では神経障害が一五・六％、網膜症が三・一％、腎障害が一五・二％、足壊疽(えそ)も一・六％いた。

糖尿病が「強く疑われる人」(482人)の治療状況 (厚労省調査)



長野の病院

肝機能障害相次ぐ

1人死亡、腎不全治療で

長野県の上伊那地区の二に転院後死亡したほか、一人人為的なミスがあった



失明、腎不全、足壊疽から切断を余儀なくされるケースだけでなく命を奪うこともある糖尿病だが、糖尿病が強く疑われる人全体でも七・五割は治療を中断しており、同省は「発症すると治療は困難だが、合併症などへの危機意識が低い」と警戒している。

●専門医が不足

同省によると、糖尿病の医療費は二〇〇〇年度で一兆千五百五十五億円で前年度から三五％増加。これに合併症などの治療

費を合わせると、糖尿病は約三十兆円の医療費を押し上げる要因にもなっているが、学会が認定する専門医は多くない。糖尿病は食生活や運動方法など幅広い生活指導が必要だけに、看護師や栄養士などに認定資格を与えて専門医と連携する動きも広がっている。二〇〇〇年度からは日本糖尿病療養指導士認定機構が「指導士」の認定事業を始め、同年度は

